「夢の跡」第41回日展／2009年

京都市立芸術大学退任記念

西田眞人展

絵事循環

2017年 12月15日［金］→2018年 1月8日［月・祝］

●開館時間／11:00～19:00
●休館日／12月18・25日（月）、12月29日（金）～1月3日（水）

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

〒604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1
Tel. 075-253-1509 http://gallery.kcua.ac.jp

@KCUA KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

京都市立芸術大学 Kyoto City University of Arts

「双」2016年 改組新第3回日展 木綿着色

「白い花」2015年 改組新第2回日展 紙本着色

「水光」2007年 第39回日展 木綿着色

京都市立芸術大学退任記念

西田眞人 絵事循環 展

Masato Nishida Exhibition

〈光〉の恩寵

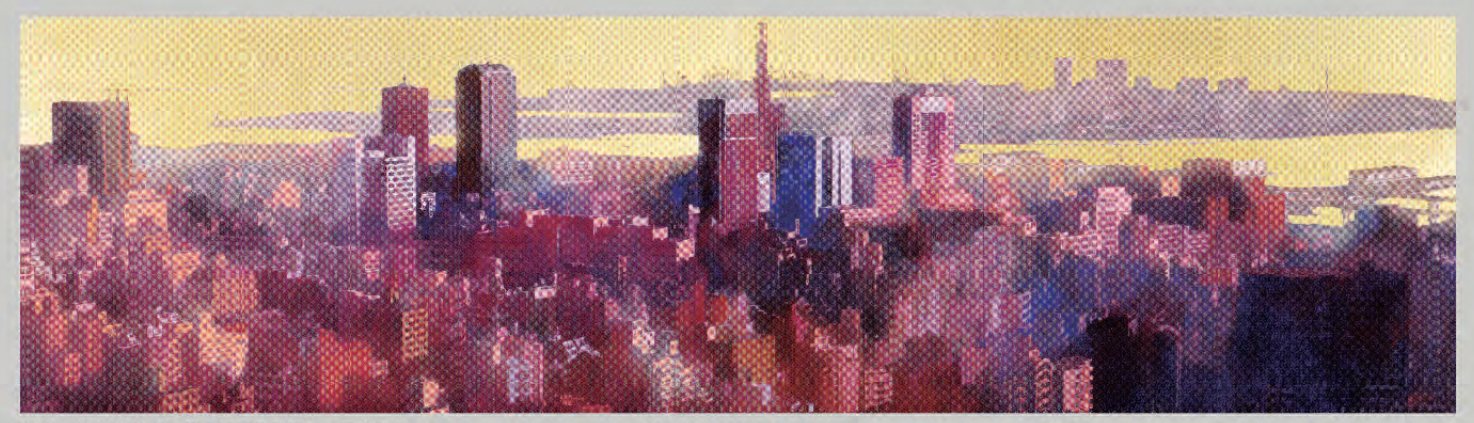
西田眞人展に寄せて

ソラリゼーションを
かけたかのような光の粒、光の線。
西田さんは、
それらに象られた物たちを
ひたすら細かに描くなかで、
じつは、その〈光〉の恩寵をこそ
描こうとしたのではないか。

京都市立芸術大学 学長　鷲田清一

「絵事循環」：池田遙邨

師事する池田道夫先生より父君池田遙邨の書を頂きました。《えごとじゅんかん》と読み、遙邨の造語かと思われます。どの様な思いでこのことばを書かれたのか…と、飾る度に考えてしまいます。怠けている時はそのことで作品が悪くなる…、変に力むと窮屈な絵に…と制作姿勢が作品に反映するという様な因果応報を説いた言葉？あるいは2015年作「白い花」は、その一年ほど前から毎日一枚、描きはじめた抽象のエスキースが契機となってできた作品。そして翌年の「双」に展開。勿論それらの制作の間にできた他の作品のこと、考えたことが影響し合い、制作が進むこと？写生・制作・鑑賞。そうしたことが私の中で循環している事？大袈裟な言い方をすれば絵を志してからは、《絵事》を中心に私の人生が循環してきたとも思われてきます。



「染まる街」2000年　第3回NEXT展　紙本着色

会　期

2017年12月15日［金］→ 2018年1月8日［月・祝］

●開館時間／11:00～19:00 ●休館日／12月18・25日（月）、12月29日（金）～1月3日（水）

ギャラリートーク vol.1

2017年
12月16日［土］14:00～
●作品解説

ギャラリートーク vol.2

2018年
1月6日［土］14:00～
●記念講演「私と日本画 ―芸大生の時、教員の時―」

会　場

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（アクア）
〒604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1

●地下鉄東西線「二条城前駅」2番出口より南東へ徒歩3分 ●市バス・京都バス「堀川御池」下車すぐ
●開館時間 11:00-19:00、月曜休館（月曜が祝日の場合は開館、翌平日を休館）
Tel. 075-253-1509　E-mail. gallery@kcua.ac.jp　詳細は　http://gallery.kcua.ac.jp

西田眞人　略歴

昭和27年	神戸市に生まれる
昭和53年	京都市立芸術大学日本画科卒業
平成5年	青塔社入塾、池田道夫に師事
平成7年	第27回日展特選（文化庁買い上げ）
平成9年	個展「神戸　光　祈り」
	神戸・京都・東京（神戸市立博物館買い上げ）
	第14回山種美術館賞展優秀賞　兵庫県芸術奨励賞
平成10年	第30回日展特選　NEXT展結成（高島屋で10回展まで開催）
平成12年	神戸市文化奨励賞
平成13年	個展「神戸　時　輝き」（神戸・東京）
平成14年	第1回東山魁夷記念日本画大賞展入選
平成15年	日展審査員（同20年、25年）
平成16年	日展会員となる
平成17年	菅楯彦大賞展大賞
平成19年	兵庫県文化賞
平成20年	京都市立芸術大学美術学部教授に就任
	神戸市文化賞
平成24年	回顧展「輝く街、染まる街～西田眞人が描いた神戸風景」こうべゆかりの美術館
平成28年	改組新第3回日展会員賞
平成29年	京都市立芸術大学退任記念　西田眞人展「絵事循環」

お問い合わせ／京都市立芸術大学事務局連携推進課【事業推進担当】Tel. 075-334-2204（平日8:30～17:15）・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA　Tel. 075-253-1509